

令和4年度

教育委員会点検評価報告書
(令和3年度対象)

令和4年9月

大鰐町教育委員会

目 次

I	点検・評価の概要	1
II	点検・評価の対象及び方法	1
III	評価委員	1
IV	評価委員会	1
V	令和3年度 大鰐町の教育	1
	1 大鰐町が目指す町の姿	
	2 大鰐町教育委員会の基本方針	
	3 令和3年度 大鰐町教育方針体系図	
VI	教育委員会の活動状況	3
	1-1 教育委員の構成（令和3年4月1日現在）	
	1-2 教育委員の構成（令和4年3月31日現在）	
	2 教育委員会会議の開催状況	
	3 教育委員の行事等参加状況	
VII	主要施策の点検・評価	7
	1 学校教育の推進	
	2 社会教育の推進	
	3 芸術文化の振興と文化財の保護活用	
	4 生涯スポーツの振興	
VIII	令和3年度 主な事業と経費及び成果等	31
IX	評価委員による点検・評価	38

I 点検・評価の概要

趣 旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律で、教育委員会は、毎年その権限に属する教育行政事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに公表することが規定されております。

この法律の規定により、大鰐町教育委員会では、今後の効果的な教育行政の推進及び町民への説明責任を果たしていくために教育に関する点検及び評価を実施し、報告書にまとめました。

II 点検・評価の対象及び方法

点検・評価の対象は、前年度に管理及び執行した事務のうち大鰐町主要施策に基づく重点の事務事業を教育委員会が自己評価しました。

- A…達成している
- B…ほぼ達成している
- C…やや達成していない
- D…達成していない

III 評価委員

- ・藤田昇治（元弘前大学生涯学習教育研究センター副センター長
兼大学院地域社会研究科准教授）
- ・笹田和夫（元中学校校長）

IV 評価委員会

- ① 令和4年7月29日（金）
 - ② 令和4年8月19日（金）
- ※会議でなく、書類のやり取りにて行いました。

V 令和3年度 大鰐町の教育

1 大鰐町が目指す町の姿

湯の郷・雪の郷・りんごの郷 おおわに

- ① 美しく・潤いのあるまちを創る
- ② にぎわいと住みやすさのあるまちを創る
- ③ 活力と夢を育むまちを創る
- ④ 豊かな心と学びのまちを創る
- ⑤ 健やかで笑顔のあるまちを創る
- ⑥ みんなで築くまちを創る

（第5次大鰐町総合振興計画）

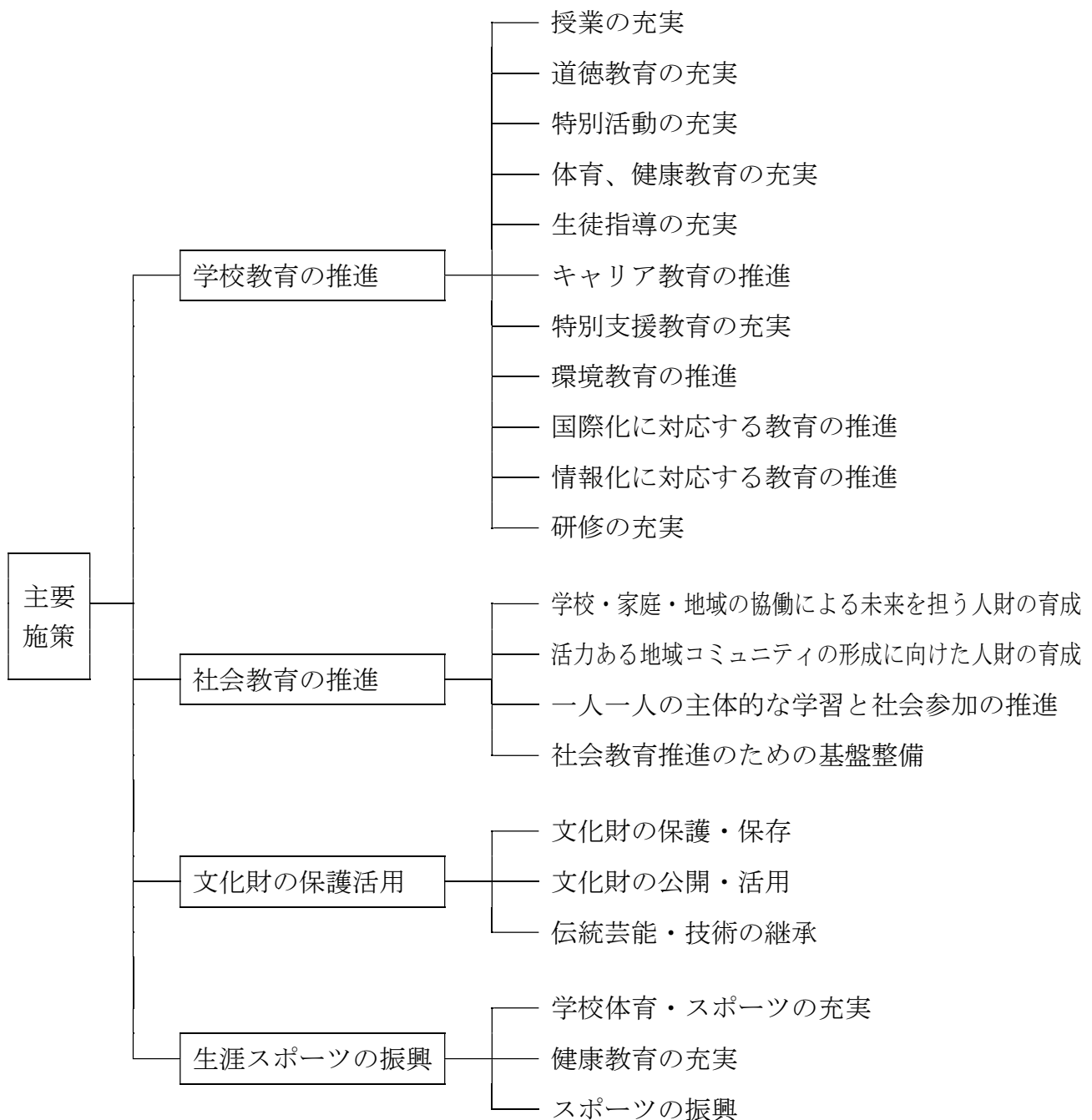
2 大鰐町教育委員会の基本方針

大鰐町教育委員会、その他関係機関・団体との連携を図りながら、町を育てる学力、町に生かせる学力を育てていきます。

大鰐町の未来を創る人財の育成

一人一人が学び、郷土を愛する、心豊かでたくましい人づくり

3 令和3年度大鰐町教育方針体系図



VI 教育委員会の活動状況

1-1 教育委員の構成（令和3年4月1日現在）

役職名	氏名	委員としての任期	委員長及び教育長としての任期	備考
教育長	木田 専一		R01. 10. 29～ R04. 10. 28	H28. 10. 29 新教育委員会制度 による教育長就任
教育長 職務代理者	成田 信一郎	R01. 12. 18～ R05. 12. 17		R02. 1. 9 教育長職務代理者就任
委員	小西 祐	R02. 10. 29～ R06. 10. 28		H20. 10. 29 就任
委員	貴田 範子	H30. 7. 13～ R04. 7. 12		H23. 7. 13 就任
委員	山口 裕子	H29. 12. 25～ R03. 12. 24		H29. 12. 25 就任

1-2 教育委員の構成（令和4年3月31日現在）

役職名	氏名	委員としての任期	委員長及び教育長としての任期	備考
教育長	木田 専一		R01. 10. 29～ R04. 10. 28	H28. 10. 29 新教育委員会制度 による教育長就任
教育長 職務代理者	成田 信一郎	R01. 12. 18～ R05. 12. 17		R02. 1. 9 教育長職務代理者就任
委員	小西 祐	R02. 10. 29～ R06. 10. 28		H20. 10. 29 就任
委員	貴田 範子	H30. 7. 13～ R04. 7. 12		H23. 7. 13 就任
委員	山口 裕子	R03. 12. 25～ R07. 12. 24		H29. 12. 25 就任

2 教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議は、原則として毎月1回「教育委員会定例会議」を開催している。また、必要に応じて臨時会を開催し、令和3年度の定例会は12回、臨時会は開催されていない。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第13条及び「大鰐町教育委員会会議規則」の規定に基づき、令和3年度は以下の案件について審議及び報告事項による確認を行なった。なお、定例会では教育長に関わる業務内容を毎回報告し、教育委員間で認識の共有化に努めている。

開催日	件名
第1回 定例会 4月5日	報告事項1 業務報告 報告事項2 大鰐町教育委員会・事務局職員名簿 議案第1号 大鰐町公民館運営規則の一部を改正する規則案 議案第2号 教育財産の取得申出の件
第2回 定例会 5月10日	報告事項1 業務報告 議案第3号 教育財産の取得申出の件
第3回 定例会 6月7日	報告事項1 業務報告
第4回 定例会 7月5日	報告事項1 業務報告
第5回 定例会 8月2日	報告事項1 業務報告
第6回 定例会 9月1日	報告事項1 業務報告 議案第4号 令和3年度 教育委員会点検評価報告書（令和2年度対象）について
第7回 定例会 10月4日	報告事項1 業務報告
第8回 定例会 11月1日	報告事項1 業務報告
第9回 定例会 12月6日	報告事項1 業務報告

開催日	件名
第10回 定例会 1月18日	報告事項1 業務報告 報告事項2 令和3年度 青森県学習状況調査結果 (大鰐小学校第5学年) (大鰐中学校第2学年)
第11回 定例会 2月7日	報告事項1 業務報告 議案第5号 大鰐町立小学校及び中学校の管理運営に関する規則の一部を 改正する規則案 議案第6号 大鰐町学校運営協議会規則案 議案第7号 県費負担職員の懲戒処分について
第12回 定例会 3月7日	報告事項1 業務報告 議案第8号 大鰐町教育支援委員会設置に関する規則の一部を改正する規 則案 議案第9号 大鰐町学校給食センター管理運営規則の一部を改正する規則 案 議案第10号 令和3年度大鰐町スポーツ賞表彰被表彰者の選考について 議案第11号 令和3年度大鰐町スポーツ奨励賞表彰被表彰者の選考につい て 議案第12号 令和3年度学校教育活動表彰被表彰者の選考について 議案第13号 令和3年度退職教員表彰被表彰者の選考について

3 教育委員の行事等参加状況

教育委員会は、教育委員会会議のほか、学校行事及び研修会に参加している。

期 日	行事・研修会等	場 所	参加委員
	南地方市町村教育委員会連絡協議会（中止）		
令和3年 4月7日	大鰐町立大鰐小学校及び大鰐中学校入学式	各学校	なし(新型コロナウイルス感染症拡大防止のための制限)
4月26日	大鰐町教職員全員研修会		全委員
5月16日	大鰐小学校運動会（中止）		
5月28日	大鰐中学校運動会	大鰐中学校	なし(新型コロナウイルス感染症拡大防止のための制限)
	青森県市町村教育委員会連絡協議会定時総会・研修会（中止）		
6月28日	前期学校訪問 (大鰐小学校・大鰐中学校)	各学校	全委員
	社会を明るくする運動（中止）		
11月8日	後期学校訪問 (大鰐小学校・大鰐中学校)	各学校	全委員
	南地方市町村教育委員会連絡協議会秋季研修会（中止）		
令和4年 1月9日	大鰐町成人式		
2月17日	大鰐小学校スキー大会	大鰐温泉スキー場	なし(新型コロナウイルス感染症拡大防止のための制限)
2月22日	大鰐町総合教育会議	中央公民館	全委員
3月15日	大鰐中学校卒業式	大鰐中学校	なし(新型コロナウイルス感染症拡大防止のための制限)
3月18日	大鰐小学校卒業式	大鰐小学校	なし(新型コロナウイルス感染症拡大防止のための制限)
	大鰐町教育委員会顕彰式 (中止)		

VII 主要施策の点検・評価

1 学校教育の推進

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
(1)授業の充実	一人一人の子どもが、各教科及び総合的な学習の時間等において主体的・対話的で深い学びを通して確かな学力を身に付けることができるよう、言語活動の充実を図りながら、一人一人の能力・適性に応じた指導と学習習慣の育成に努める。	<p>【小学校】</p> <p>各教科の特性を考えながら、効果的な言語活動を取り入れて、各学年に応じた教科指導を行った。校内研修のテーマは、「学びをつなげ、考えを深める子どもの育成」で、考えを表現することを意識した国語科と算数科の授業を展開した。系統的に指導することを意識し、どの学年の児童も表現力が向上した。C R T 学力テストの得点率は、特に4年生以上の主体的に学習に取り組む態度の観点別において、どの教科も全国平均を大きく上回っていた。</p> <p>今後は、他教科とのつながり、教科の系統性、生活とのつながりをさらに意識した、指導方法の工夫をし、さらなる授業改善をしていきたい。</p>	A
		<p>【中学校】</p> <p>「『確かな学力』を身に付け、学び続ける生徒の育成」のために、①N R T等の学力検査に加え、アセスや生徒意識調査等の情意面のアンケート調査の実施・分析、②学習指導要領の完全実施に向けた「授業づくりのポイント」の明確化と共通理解、③諸検査や調査を踏まえた取組内容の</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>明確化と共通行動の徹底、の3点について取り組んだ。</p> <p>その結果、生徒意識調査等によると、生徒の学習意欲が向上し、課題に対して粘り強く取り組んだり、積極的に学び合ったりする生徒が増え、授業や学習に対する情意面の向上が顕著である。また、コロナ禍の臨時休業措置等の影響で、昨年度と比べ全体的なNRTの学力偏差値は低下したものの、2学年では標準を示す50を上回り、学力低下を抑えることができた。</p>	
(2) 道徳教育の充実	<p>一人一人の子どもが、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心を持つことができるよう、全教育活動を通じて道徳性の育成に努める。</p>	<p>【小学校】</p> <p>週一時間の特別の教科 道徳の時間においては、物事を多面的・多角的にとらえられるように、教科横断的な学習活動（年間指導計画 別葉を活用）も含め、問題解決的な学習を行った。児童の発達の段階は、年齢だけでなく個人差もあるので、道徳ノートも活用し、その時その時の児童の考えを書き留めさせるようにし、一人一人の考え方や感じ方を大切に授業の展開をするよう心がけた。</p> <p>今後も道徳性が継続的に養えるように、学校行事や児童会行事、集会活動を充実させるとともに、体験的な活動を生かした授業を大切にしていきたい。また、身近な大人のモデルであ</p>	B

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>る教師の言動や安全で教育活動のしやすい場づくりなど、人的・物的環境を整えていきたい。</p> <p>【中学校】 特別の教科「道徳」の趣旨を踏まえ、「考え、議論する」道徳の時間の授業づくりのポイントや評価内容・方法について共通理解を図った。また、別葉を基に全教育活動との関連性を明確にし、「教科書で教えること」を基本に教科書や自作ワークシートを工夫しながら、授業を35時間以上確実に行った。さらに、学級担任、副担任及び管理職全員による道徳の授業実践により、より多角的・多面的に生徒一人一人の豊かな心の育成に取り組めた。</p>	A
(3)特別活動の充実	<p>一人一人の子どもが、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく築いていくことができるよう、必要な資質・能力の育成に努める。</p>	<p>【小学校】 楽しく自己指導能力を育むことができる学校生活にするために、児童一人一人が力を出し合って、自治的・自発的な活動ができるように、特別活動の計画・実践に取り組んできた。コロナ禍ではあったが、できる範囲でねらいに即した集会活動や縦割り班活動、学校行事を行ってきた。具体的には、上学年が中心になって全校遠足でのオリエンテーリングを企画したり、あ</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>りがとうの会を運営したりすることである。</p> <p>今後も、集団や自己の生活上の課題を解決するために、合意形成を図ったり、意思決定したりすることを通して、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を児童会行事や委員会の常時活動、学級活動を通して養っていききたい。</p>	
		<p>【中学校】</p> <p>一人一人が「夢」に向かって「なりたい自分」を目指して無限大の力を発揮してほしいとの願いを込めた第65期生徒会テーマ「夢限大～夢に向かって果敢に挑む自分を目指して」のもと、①「当たり前のこと」を当たり前でできる「鱧中生」の育成～規範意識の醸成と自律心・自立心の育成、②生徒自身の手による学校生活の向上、③学校行事に加え日常の委員会活動の活性化、④主体的に行動できるリーダーの育成に重点を置きながら、「前年度の『鱧中宣言』の改訂と『アピール2021』の作成」「全校話合い活動」「縦割り班によるテーマ別分科会」「リーダー研修会」等様々な取組を実践した。</p> <p>その結果、委員会活動の活性化やリーダーの主体性の向上に加え、全校生徒一人一人の自立心と自律心を高めることが</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>できた。特に、「鰯中宣言～アピール2021」を採択した生徒総会では、全校生徒が自らの生活を振り返り、「人として『基本的なもの』は何か。」を考え協議し、「鰯中生にとっての『当たり前』」を明示できた。また、鰯中祭や体験学習等で、生徒同士が認め合い、励まし合う機会を意図的・計画的に設定したことにより、生徒は「仲間の良さ」「仲間と共に活動する楽しさや充足感」を得ることができた。</p>	
<p>(4) 体育、健康教育の充実</p>	<p>一人一人の子どもが、生涯にわたり自ら進んで運動に親しみ、健康・安全で活力のある生活を送ることができるよう、家庭や地域社会との連携を図りながら、心と体を一体として捉え、健やかな体を育む教育の推進に努める。</p>	<p>【小学校】</p> <p>個に応じた課題を設定し、馬拉ソンカードや縄跳びカードを活用し、一人一人に目当てをもたせ、意欲的に体を動かす機会を意図的に設けている。個人差に応じた言葉がけや意欲付けにも配慮している。その結果児童は、休み時間には自由に体を動かすことができるようにグラウンドの整備、体育館の割り当て等、環境を整えている。また、地域及び各学年の実態に応じた健康教育を関係機関の協力を基に行い、知識を得させたり、その様子を家庭に周知したりしながら、健康的な望ましい習慣を身につけさせている。</p> <p>今後も、継続的に運動をする機会を設けるとともに系統的な健康教育に取り組んでいきたい。</p>	<p>A</p>

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>【中学校】</p> <p>男女問わず全体的に見られる本校生徒の肥満傾向や、基礎体力不足、生活習慣の乱れ、人間関係などによるストレスを抱える生徒が見られることから、保健体育の実技や保健の授業に加え、食育の授業を柱とする独自の健康教育プログラムを作成し実施した。</p> <p>具体的には、保健体育の実技での「基礎体力づくり」、養護教諭と体育の教師の2人による「ストレスマネジメント能力を高める授業」、栄養教諭と家庭科の教師の2人による「食育(座学及び調理実習)」に取り組み、「心身の健康づくり」の大切さと必要性を理解させることができた。本校の取組は、2021年度地域課題解決事業：健康教育推進プログラムとして、中南地区連携推進協議会で紹介され、高い評価を得た。</p> <p>また、生徒一人一人が安全に行動したり、他の人や社会の安全のために貢献したりできるように、学校安全指導計画を基に、安全学習及び安全指導を含む安全教育に取り組み、昨年度は生徒の自転車による交通事故及び校内の事故「0」を達成することができた。</p>	A
(5) 生徒指導の充実	一人一人の子どもが、豊かな生活を送ることができるよう、家庭や地域社会及び関係機関	<p>【小学校】</p> <p>生徒指導の三機能（自己決定、自己存在感、共感的人間関</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
	<p>等との連携を図りながら、心の結びつきを基調とした指導を行うとともに、問題行動・不登校等の未然防止、早期発見・早期対応に努める。</p>	<p>係) を生かした授業を含め、日常の学校生活の中で、児童に対して共感的に指導・支援を行った。教育相談（ふれあい相談）時には、「学校環境適応尺度アセス」「学校生活のアンケート」「毎日の生活をふりかえって」など各種アンケートを活用し、児童の思いに寄り添った生徒指導に取り組んだ。年3回の「情報交換会」では、適切な指導・支援及び組織的な対応ができるよう全職員で共通理解を図った。</p> <p>今後も、児童理解を深めるために、一人一人の児童と教師が向き合うために、生徒指導の三機能を生かした授業をしていくこと、いじめや問題行動が大きくならないうちに未然防止を図る指導をすること、小さな芽に対して早期発見・早期対応ができることを目指し、全教職員で全児童を多角的・多面的かつ組織的に指導・支援していきたい。また、問題行動が起きた時は、児童が成長するチャンスと捉え、誠実かつ早急に対応していきたい。</p> <p>【中学校】</p> <p>「豊かな人間性育成のために、①生徒指導の方針「見せない見えない生徒はいても、抱えていない生徒はいない」の徹底、②生徒が集団で孤立しないよう、一人一人の悩みやストレ</p>	<p></p> <p>A</p>

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>スの原因の把握と支援方法の明確化、③生徒一人一人が、「悩みや困り感」をいつでも相談できる環境づくり、の3点に取り組んだ。</p> <p>その結果、アセスや生徒意識調査結果によると、人間関係が希薄になりがちなコロナ禍でも、先生と生徒及び生徒同士の人間関係が良好で、生徒は安心して楽しく学校生活を過ごせており、多くの生徒が先生方には厚い信頼を寄せるとともに、心を許せる友達ができていた。</p> <p>また、別室登校及び保健室登校の生徒が、3年生に4名、2年生に2名いたが、不登校傾向の生徒に対する柔軟な対応により、完全不登校生はおらず、登校の継続に加え鰯中祭や体験学習等にも参加できた。特に、3年生3名は県立高校への進学を、残り1名は私立高校進学を果たし、進学後も休まず登校できており、本校職員の親身な対応が立ち直りにつながった。</p> <p>さらに、校内外において、重大ないじめや問題行動が発生せず、全生徒が落ち着いた学校生活を過ごすことができた。</p>	
(6) キャリア教育の推進	一人一人の子どもが、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立ができるよう、必要な基盤となる資質、能力の育成に努	<p>【小学校】</p> <p>「キャリアパスポート」を活用し、家庭や地域の協力を得たりしながらキャリア形成と自己実現に向けての指導を学年</p>	B

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
	める。	<p>に応じてしてきた。また、キャリア教育の全体計画を作成し、所属する集団やみんなのために働く経験や日常の積み重ねを重視し、働くことの大切さや意義を考えさせ、目的をもって意欲的に学ぶ姿勢が身につくよう指導してきた。コロナ禍で、5・6年生を中心にしたOH！鰯元気隊キッズの活動は学校園で育てた作物を鰯 come で販売するのみになったが、地域と関わりながら今後も活動していきたい。</p> <p>今後も各学年、各教科の中で郷土学習に継続して取り組んで行くとともに、個に応じたキャリア教育につながるよう意識して授業づくりに励みたい。</p>	
		<p>【中学校】</p> <p>培いたい資質や能力を明確にしなが、特に学級活動や総合的な学習の時間での進路学習、各学年の体験学習を関連させることで、「働くこと」や「学ぶ意義」に気付けるように工夫した。また、年度当初に、全生徒及び教職員が DreamBoard（自分の目指す姿をまとめたもの）に「なりたい自分」を掲げ、そのための具体的な方法を考えることを通して、キャリアプランニング能力や進路実現に向けて努力する態度を育成することに努めた。また、自己の生き方を振り返り、夢や生き方</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>に触れる機会として、全校を対象に「キャリア講話」を実施した。</p> <p>来年度は、大鰐町の地域おこしに尽力している町の人材に、将来を担う鰐中生に対してのメッセージを伝えてもらう「全校キャリア講話」や、コロナ禍で実施できなかった1学年「ふるさと学習」、2学年「職場体験学習」を、新設される「大鰐中学校学校運営協議会」と連携して実施したい。</p>	
(7) 特別支援教育の充実	<p>発達障害を含む障害のある子どもが、障害による学習上または生活上の困難を主体的に改善・克服するとともに、そのもてる力を最大限に発揮して自立や社会参加ができるよう、一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援に努める。</p>	<p>【小学校】</p> <p>一人一人の児童を生かし、可能性を最大限に伸ばすという視点に立ち、「個別の支援計画」に基づいた支援を心がけた。児童理解をし、合理的な配慮をしてきた。また、保護者との面談を定期的にもち、学校での様子、支援の在り方などを共有するなど、家庭との信頼関係の構築も図ってきた。在籍及び協力学級間の担任による日常的な情報交換もしっかり行った。</p> <p>今後も、具体的な支援を実施すること、家庭との連携を密にすること、関係機関との連携を図ること、教職員の研修を充実することなど、児童や家庭を支援する体制を継続させていきたい。</p>	A
		<p>【中学校】</p> <p>町の特別教育支援委員会や</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>小中連携協議会等の機会を通して、小学校と綿密に情報交換を行い、保護者との連携を図りながら、指導や支援に努めた。特別支援学級に在籍する生徒については、個別の指導計画と教育支援計画を作成し、保護者に説明し承認を得た上で実践している。また、通常の学級に在籍する発達障害の傾向がある生徒についても個別の指導計画を作成した結果、教職員の支援がなくとも自ら教育活動に参加できるようになった。</p> <p>配慮や支援が必要な生徒については、職員会議や主任会議に加え、学期ごとの情報交換の場を設け、一人一人の生徒の状況の確認及び対応について協議した。特に、具体的な支援方法については、生徒の困り感を踏まえて、教育支援員によるT Tの実施など迅速かつ柔軟に実施した。</p>	
(8)環境教育の推進	<p>一人一人の子どもが、環境と人間との関わりについて関心と理解を深め、環境に対する豊かな感受性を養うことができるよう、環境保全に主体的に取り組む態度の育成に努める。</p>	<p>【小学校】</p> <p>児童にとって日常的に安心安全な中で学校生活を送れるように、人的・物的環境を整えてきた。また、畑やフラワーポットで、各学年に応じた花や野菜を育てることを通して、環境に対する感受性を育てた。低学年では学校探検や町探検、中学年では町の産業や自然、高学年ではわがまち自慢や町の歴史などを学ぶ学習活動を通し</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>て、環境に対する意識を授業の中で培ってきた。また、学校・家庭、地域社会が連携しながら、資源回収を行ったり、校内の環境美化計画をもとに教室の美化、掲示板の充実を図ったりしてきた。</p> <p>今後も、身近な自然や社会環境に触れさせることができるよう日常の授業の中に体験活動を積極的に取り入れていきたい。</p> <p>【中学校】</p> <p>国連のSDGs(持続可能な開発目標)の紹介や学校生活との関連の周知などを実践しながら本校の現状に合った環境教育に取り組んでいる。また、コロナ禍の影響で、新入生によるつつじ記念植樹や校外の清掃ボランティア等の教育活動を実施できなかったものの、代替え事業として生徒会による校内の清掃ボランティアを行った。</p> <p>その結果、生徒による清掃活動も年々丁寧に行われるとともに、空き教室の整理整頓が徹底され、望ましい学習環境が整えられている。また、教室や廊下には、生徒の振り返りや作品など学習の足跡が掲示されており、生徒が互いに良さを文字や視覚を通して認め合えるように配慮できている。</p>	<p></p> <p>A</p>

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
(9) 国際化に対応する教育の推進	一人一人の子どもが、我が国や諸外国の文化と伝統について関心と理解を深めるとともに、国際社会に貢献できるよう、国際理解教育の推進に努める。	<p>【小学校】</p> <p>3・4年は週1時間、5・6年は週時間の外国語活動及び外国語の時間を最大限に生かしてきた。町のALTを積極的に活用したり、動画や写真資料を見ながら学んだりすることで、コミュニケーションを図ったり、文化の違いに触れさせたりすることができた。諸外国の文化に触れること、言語を学ぶことを通して、多様性を身に付けさせてきた。</p> <p>今後も多様な文化に触れ、物事を多角的・多面的に見ることが出来る児童の育成を図っていきたい。指導法の技術、ICTの使い方、言語能力を高めるなどの研修も深めていきたい。</p>	A
		<p>【中学校】</p> <p>校内に常勤のALTがいる恵まれた環境にある。生徒は英語の授業時間はもちろん、昼休み休憩室での交流や総合文化部の活動などで日常的にALTと接している。また、授業だけではなく、英語弁論大会等の指導にも尽力してくれており、生徒の国際理解を深めるとともに、英語によるコミュニケーションへの関心・意欲を高めてくれている。</p>	A
(10) 情報化に対応する教育の推進	一人一人の子どもが、情報活用能力を身に付けることができるよう、情報モラルに関わる指導の充実を図り、系統的・体	<p>【小学校】</p> <p>本格的に一人一台端末が使用できるようになり、昨年度よりもさらに日常の授業の中で、</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
	<p>系的な情報教育の推進に努める。</p>	<p>I C T機器を効果的に用いて、授業を行うことができた。学年の実態に合わせて、プログラミング教育を行ったり、I C Tリテラシーを身に付けさせたりした。情報モラル教育では、中学校区で連携して「大鰐小・中学校 ゲームやスマホの5つの約束」を家庭に啓発し、定期的に児童の実態を調査して、指導に役立てた。</p> <p>今後も、各教科のどの場面でI C T機器を効果的に活用するのか、また、複雑化し見えにくくなっているS N Sの使用も含めて情報教育の指導計画を見直したり、職員の研修を深めたりしていきたい。</p> <p>【中学校】</p> <p>タブレットや大型T V、電子黒板、書画カメラ、デジタル教科書が各学年に導入され、校内Wi-Fi 環境も整えられたため、各教科・領域の授業に加え、学校行事などで効果的に活用できている。また、教職員への校務用P Cや校務支援システムの導入により、事務負担を軽減し教職員の多忙化解消にもつながっている。</p> <p>本校の情報モラル教育については、①オンデマンド型の情報モラル教室の実施、②小中(地域)連携した取組「ゲームやスマホの『5つの約束』」の活用、保護者・地域への配付に加</p>	<p></p> <p>B</p>

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		え、校内では、③全校朝会や学年集会での注意喚起を通して、情報モラルの向上に取り組んだ。	
(11) 研修の充実	教員等の資質を高め、教育活動の充実を図るため、計画的・実践的な研修の充実に努める。	<p>【小学校】 校内研修において、全教員、全学級による提案授業を実施し、組織的かつ継続的な研修を推進することで、授業力の向上を図ってきた。働き方改革の視点と授業そのものの充実を図るため、指導案は簡略化し、その代わり言語活動の充実と児童一人一人の個別最適な学びの保障を目指して、一人一授業を展開して、授業改善に取り組んだ。また、研究授業後には、ワークショップ型の協議会を開き、職員の主体的な学びが活性化された。</p> <p>今後も、校内における研修を充実させるとともに、県から通達されている「教員の資質向上に関する指標」をもとに、教科指導や校務分掌に役立つ、各キャリアステージに合わせた外部の研修への参加も奨励していきたい。</p> <p>【中学校】 「主体的・対話的で、深い学び」を実現できるように、本校生徒の実態及び昨年度までの各教科等の取組を踏まえ、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりのポイント」に加え、生徒全</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>員が「わかる、できる、やれる」ことを実感できるように「ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくり」のポイントを明確にしながら、実践研究に取り組んだ。</p> <p>その成果として、授業参観者からの普段の授業づくりの取組を高く評価するコメントに加え、コロナ禍にもかかわらずNRT等の諸検査結果が一定の水準を保持できたこと、学校評価結果が高評価であったこと、が大きな成果として挙げられる。</p> <p>これらの成果は、校内研修のビジョン（方向性）とゴール(到達点)を共通理解し、授業づくりに日々取り組めたからである。また、校内研修 [教職員の興味・関心を踏まえたテーマ別 e-learning (online 研修)、指導主事等による学校訪問(計画訪問、要請訪問等年2回程度)、一人一公開授業、教職員全員による道徳の授業実践] や、校外研修 [県教育センター・中南教育事務所研修、免許更新講習] など多様な研修機会を設定し、教職員の同僚性を高め資質向上に取り組んだ結果である。</p>	

2 社会教育の推進

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
(1)学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成	青少年の体験的活動の充実	<p>ふるさと子ども教室において、大鰐町の特徴を活かす体験活動事業として、木育を目的とした「夏休みOWANIふるさと教室」を実施した。また、冬休みには、郷土の俳人増田手古奈氏の俳句カルタを用いた「わにっこカルタ大会」を地域の方に指導していただきながら実施。大鰐町の特徴を活かし、子どもたちが故郷への関心と知識を高め、体験活動を通して学べるような活動となった。</p> <p>次年度はさらに、活動を広げ、大鰐町の良さを体感させていきたい。</p>	A
	地域が支えるキャリア教育の充実	<p>小学生による八戸市への地場産品の販売・宣伝活動等の体験や、県の事業である「地域のお宝物語」の事業がコロナ禍により中止となっているが、状況を見合わせて活動を再開し、地域への愛着をもち、大鰐町社会教育に対してボランティア活動として協力してもらえるように推進していきたい。</p>	D
	子どもの読書活動の充実	<p>導入された図書管理システムにより、小中学校においては児童・生徒の読書状況の確認や読みたい図書を容易に探すことが可能となり、読書活動の充実につながっている。</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>また、公民館図書室においても、全国的に話題性のある本や要望のあった本をその都度購入するとともに、掲示物の配置に気を配るなど利用者の読書意欲の向上に努めた。</p> <p>更に、放課後子ども教室においても読み聞かせ活動を定期的に行い読書の楽しさの充実を図っている。</p>	
	<p>地域全体で子どもを育む活動の充実</p>	<p>地域の方を講師として小中学校での俳句出前教室の指導を行った。</p> <p>また、通学指導員の配置や大鰐町青少年健全育成連絡協議会による駅前の民間交番「わにっこ安心ステーション」の運営により、地域全体で子どもを見守っている。ただ、いずれも若い後継者の育成が課題となっている。</p> <p>さらに、コロナ禍で、これまで指導していただいた小学校のクラブ活動等をはじめ、地域の方々と子どもたちとのコミュニケーションがとれにくい状況となっている。</p>	B
	<p>家庭教育支援の充実</p>	<p>放課後等に子どもが安心して活動できる場の確保と心豊かで健やかに育まれる環境づくりとして放課後子ども教室を実施している。サポーターは県主催の研修会に参加し、より良い家庭教育支援ができる体制づくりにも力を入れている。また、令和3年度は実</p>	B

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>施できなかったが、家庭教育の大切さを理解してもらえよう、講座の内容等を工夫し家庭教育講座を実施していきたい。</p>	
<p>(2)活力ある地域コミュニティの形成に向けた人財の育成</p>	<p>地域活動実践者の育成</p>	<p>活力ある地域コミュニティ形成につなげられるよう大鰐町生涯学習推進会議を立ち上げたものの思うような成果をあげることができなかった。</p> <p>今年度はコミュニティ・スクール導入に当たり、地域学校協働活動本部及び学校運営協議を併せて地域活動実践者の育成に努めていきたい。</p>	C
	<p>地域活動の指導者、コーディネーターの養成</p>	<p>地域活動を実施している団体代表者や個人からの相談や連絡を受け、地域イベント等に対する参加や協力を行い、地域活動指導者の育成につなげることができてきている。</p> <p>具体的に地域コーディネーターの養成はできていないが、今後は多くの団体や個人を支援できるよう、コーディネーター養成講座等の周知を行っていきたい。</p>	B
	<p>地域活動に関わる人財のネットワーク形成の支援</p>	<p>令和2年度に引き続き、可能な限り地域住民の講師活用を行った。新たな人材育成を図っていることから人材バンクの整備を含めた、ネットワークの構築と拡大に努めたい。</p>	B
<p>(3)一人一人の主體的な学習と社会参加の推進</p>	<p>関係機関との連携による多様な学習活動の支援</p>	<p>成人大学・ふるさと子ども教室・放課後子ども教室・俳句教室等において役場や町内</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>の機関からの協力を得て講師派遣等の支援を受けた。</p> <p>学習支援の体制づくりとともに学習内容について町民の要望等に応じながら多様な学習活動ができるように機会を設けていきたい。</p>	
	<p>学習成果を生かした社会参加活動の支援</p>	<p>成人大学では、グラウンド・ゴルフやボッチャを体験してもらい、ニュースポーツフェスティバルへの参加につながることができた。</p> <p>学習成果を発揮できる場を町内に限らず探し、周知等ができるよう近隣市町村の情報まで視野を広げていきたい。</p>	A
<p>(4) 社会教育推進のための基盤整備</p>	<p>社会教育推進体制の充実</p>	<p>町社会教育行政の方針と重点に基づき事業を展開するとともに、社会教育委員や参加者の意見をいただき事業内容の見直しを図ってきた。</p> <p>また、点検評価委員会からの評価や指摘事項に基づき、即対応・改善を図っていく体制づくりもしていきたい。</p>	B
	<p>社会教育施設の機能の充実と活用の促進</p>	<p>図書管理システムの導入から6年が経過し図書室利用者の増加はもちろん、県立図書館との相互貸借により多くの図書に触れることができる体制が作られている。</p> <p>公民館の利用についても、役場各課の事業開催、文化協会員のコーラスや健康サークルなど多くの利用がされている。</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>今後においても積極的な公民館施設の開放や利用促進活動を図り、地域に根ざした来館しやすい公民館の姿を目指していく。</p>	
	<p>社会教育関係職員の養成と資質の向上</p>	<p>社会教育関係事業に関する各種会議や研修会に積極的に職員派遣を行った。</p> <p>町職員の社会教育主事資格所持者の配置換え等により、現役の社会教育主事が減少している中で、令和3年度は社会教育主事研修へ参加することができ、社会教育主事の養成を計画的に進められるよう努めたい。</p>	B
	<p>社会教育関係団体等の活動の支援</p>	<p>各社会教育団体への補助金の交付や団体活動への職員の参加など団体活動の支援を行い、活動の支援に努めた。</p> <p>今後も継続的に社会教育団体を支援していきたい。</p>	A

3 文化財の保護活用

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
(1)文化財の保護・保存	かけがえのない文化財を次代に伝えるため、適切に管理し、保護・保存に努める。	<p>板碑の標柱が傷んでいるものがあり順次修繕することとした。昨年度は宿川原地区の板碑の標柱を修繕した。今年度は森山地区の標柱を修繕する予定である。</p> <p>「はぎかつら」説明版の文字が剥がれている部分が多々あり、今年度修繕することとした。また、アメリカシロヒトリの被害が見られたので、早急に薬剤を散布した。引き続き、文化財の状況把握に努めていきたい。</p>	A
(2)文化財の公開・活用	町民が文化財に興味・関心を持ち、親しめるよう、公開・活用と情報発信に努める。	<p>町文化財の状況を生涯学習だよりに2回に分けて紹介し、文化財に関する意識を高めるようにした。</p> <p>指定文化財以外に、町に現存する、石碑やヲシテ文字神璽等に対する問い合わせが県内外からあり、改めて町内には興味を引く文化財があることが分かった。資料として保存していきたい。</p>	B
(3)伝統芸能・技術の継承	地域で生まれ、保存・伝承されてきた伝統芸能や技術の継承に努める。	<p>伝統芸能技術の継承を担うには、児童・生徒が興味関心を持つことが重要であり、場を提供する必要があるが、コロナ禍、クラブ活動で指導できなくなったり、様々な場面で発表の場が少なくなったりしたことは、とても残念なことである。早い収束を願うものである。</p>	B

4 生涯スポーツの振興

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
(1)学校体育・スポーツの充実	<p>児童・生徒が、自ら進んで運動に親しむ資質や能力を身に付け、健康保持増進と体力の向上を図ることができるよう、学校体育・スポーツの充実に努める。</p>	<p>地域の特色であるアルペン・クロスカントリースキーを親しみやすく・楽しめるような環境づくりをして町内児童・生徒の体育・健康教育の振興を図るために、スキー場リフト券の助成を実施した。</p> <p>令和3年度は、休校措置があったものの、442人が利用し、多くの児童が地域の特色であるスキーに親しみ、冬季スポーツに触れる機会を創出した。</p>	A
(2)健康教育の充実	<p>児童・生徒が心身ともに健康で安全な生活について理解し実践できるよう、学校、家庭、地域社会の連携を図り、学校保健、学校における食育及び学校安全を総合的に推進し、健康教育に努める。</p>	<p>町給食センター栄養士及び学校担当教諭が連携し、地元の食材や特産品を使用しながら、地産地消の食育活動を行うことができた。</p> <p>食材やメニューの工夫を行い、地元の食材をより多く活用し、児童・生徒の地元へ興味を高めつつ、食物アレルギー対応など、安全な給食の確保をより一層図って行きたい。</p>	B
(3)スポーツの振興	<p>町民が生涯にわたり豊かなスポーツライフを実現できるよう、スポーツに親しむ環境づくりと競技力を向上させる環境づくりの充実に努め、スポーツの推進に努める。</p>	<p>大鰐町を代表するスキー競技は、平成26年度から平成28年度にかけて全国大会を開催し、令和7年度の冬には第80回国民スポーツ大会冬季大会の開催地になる予定であるため、各競技団体からの要望などを参考に国スポ開催に向けて準備を進める。</p> <p>また、虹貝多目的広場については、支障木を撤去するなど、</p>	B

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>利用者が安心・安全に利用できるように、環境を整備した。今後さらに更新をしなければならぬ施設用品があるため、現地を確認し、環境整備に努める。</p>	

Ⅷ 令和3年度 主な事業と経費及び成果等

事業名	区分	決算額 (千円)	事業内容	成果等
情報機器活用支援事業		1,760	小・中学校の教職員に対し、令和2年度末に導入した一人一台端末（タブレット）の利活用に関する研修を実施。 【令和3年度実績】 大鰐小：4回実施 大鰐中：4回実施	タブレット利用を取り入れた学校授業の機会が増え、ICTを活用した教育の推進に繋がった。
特別支援教育推進事業		8,797	小・中学校の普通学級に在籍する学習障害や多動傾向等により特別な配慮を必要とする児童・生徒の学校生活の支援を行うため、教育支援員を配置	令和3年度は、小学校に3人、中学校に2人の支援員を配置し、支援が必要な児童生徒に手厚い対応を行うことができた。
A L T 招致事業		4,729	【令和3年度実績】 人件費 4,467,664円 旅費 0円 需用費 1,632円 役務費 67,650円 住宅借上 78,845円 負担金 113,600円 計 4,729,391円	中学校に外国語指導助手を配置することによって、生きた英語を体験することができる。また、スピーチコンテストや英検の面接の練習を手伝いListening/Speaking能力の向上に寄与した。 また、小学校の外国語活動の授業にも派遣し、中学校入学後の英語教科にギャップなく取り組んでいる。
スクールバス運行事業		12,210	長小方面 5,555,000円 二小方面 3,345,650円 駒木方面 3,309,350円 計 12,210,000円	遠方から通学する児童のためスクールバスを運行し、児童の登下校の安全を確保することができた。
スクールバス購入事業		7,344	遠距離通学支援及び通学路における安全確保の手段として導	バスの故障等で運行に支障をきたしていた通学

事業名	区分	決算額 (千円)	事業内容	成果等
			入しているスクールバスについて、老朽化が著しい車両の更新を実施。 車両本体費用：7,260,000円 登録時諸費用：83,850円	路線の安定的な運行に繋がった。
小学校改修事業		6,778	各階便所便器及び便座交換他工事 1,969,000円 排水設備工事 3,993,000円 家庭科室給湯設備設置工事 748,000円 中庭駐車場照明機器設置工事 68,200円 <hr/> 計 6,778,200円	学校施設・設備等の改修工事等を実施することにより、学校施設等及び教育環境の適正な維持管理が図られた。
中学校改修事業		6,573	消火ポンプ交換工事設計業務委託 396,000円 水道切替配管工事 1,452,000円 非常用放送設備アンプ取替工事 674,300円 調理室給湯設備設置工事 555,500円 消火ポンプ交換工事 3,232,900円 職員玄関照明設置工事 41,800円 機械警備機器設置工事 220,000円 <hr/> 計 6,572,500円	
(繰越明許費) 中学校改修事業		33,524	便所改修工事 33,524,150円	
生きる力育成事業補助金		1,050	「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」などの「生きる力」を育むために、決められた予算内において学校長の裁量で自由	小学校では、鰯っこ暗唱詩集を作成し、文芸作品を暗唱させることで、文学的興味や関心を高め

区分 事業名	決算額 (千円)	事業内容	成果等
		<p>に予算を執行できる。</p> <p>大鰐小 661,000 円</p> <p>大鰐中 388,596 円</p> <hr/> <p>計 1,049,596 円</p>	<p>るとともに、豊かな心を育むことができた。また、スキー教室の実施により、ふるさとへの愛着を育むことができた。</p> <p>中学校では、問題集の購入や実力テストを実施し分析することで、学力の向上を図ることができた。また、総合的な学習の時間において、助産師による講習会を行うことで生徒自身が命の大切さを考える機会を与えることができた。</p>
部活動支援事業	3,436	<p>大鰐小・中学校における部活動等の充実及び発展を図るため、児童生徒が選手として対外競技会等に参加するための費用を補助するほか、必要に応じて備品購入に係る費用を補助している。</p> <p>大鰐小 2,750,000 円</p> <p>大鰐中 686,000 円</p> <hr/> <p>計 3,436,000 円</p>	<p>大鰐小学校スキー部の児童が、県代表としてJOCジュニアオリンピックカップ 2022 全日本ジュニアスキー選手権大会に出場を果たし、練習の成果を発揮することができた。</p> <p>また、あじやら BBC の児童が県代表として第10回坂本竜馬旗争奪西日本小学校野球大会に出場し、練習の成果を発揮することができた。</p> <p>大鰐中学校においても、昨年度に引き続きスキー部の生徒が全国大会に出場し、上位の成績を残すことができた。</p> <p>全国大会では、トップ</p>

事業名	区分	決算額 (千円)	事業内容	成果等
				レベルの競技を体感することにより、向上心の醸成と技術の向上が図れ、他県の児童生徒との交流など、貴重な体験をさせることができた。
小学校扶助費		5,417	就学援助費・特別支援就学奨励費 学用品費等 1,612,845 円 給食費 1,622,250 円 遠距離通学費 <hr/> 2,181,990 円 計 5,417,085 円	【就学援助費・特別支援就学奨励費】 経済的理由により、就学困難な児童・生徒の保護者及び特別支援学級で学ぶ児童・生徒の保護者等に対して、教育を受ける上で必要な学用品費や学校給食費の扶助をしたことにより、義務教育の円滑な実施がなされた。
中学校扶助費		3,278	就学援助費・特別支援就学奨励費 学用品費等 1,249,561 円 給食費 1,101,600 円 遠距離通学費 <hr/> 927,265 円 計 3,278,426 円	◇扶助対象者 小学生 33名 中学生 22名 【遠距離通学費】 遠距離地域から通学する児童・生徒の保護者に対して、通学費の全額又は一部を扶助したことにより、保護者の経済的負担の軽減と義務教育の円滑な実施がなされた。
生涯学習推進事業		250	生涯学習だより・成人大学・ふるさと子ども教室・成人式等各種事業の実施	社会の変化やライフステージに即した事業及び子どもたちが地域文化に

事業名	区分	決算額 (千円)	事業内容	成果等
				触れる機会を設けた事業を展開し、町民一人一人が主体的に学ぶ学習機会の提供を行った。
俳句の街づくり 推進事業		216	大鰐温泉俳句の街づくり実行 委員会補助金	<p>第28回増田手古奈記念大鰐温泉俳句大会は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から一般の部を紙上大会とした。県内外から222名もの参加者を数えた。</p> <p>更には、小・中・高校生の部においては中弘南黒平地区から1301名の参加者を数え、俳句への関心の高まりを感じることができた。</p> <p>しかしながら、俳句箱においては、コロナ禍一般の部への投句者が減っている。早い収束を願うものである。</p>
放課後子ども教室 推進事業		1,364	放課後子ども対策事業教育活動 サポーター、コーディネーター謝礼金等	<p>中央公民館で実施し、平成25年度より中央公民館教室では休館日である月曜日も開催。</p> <p>放課後における子どもの安全・安心な居場所づくりと有益な余暇活動のための放課後子ども教室を開催することができた。</p>
生涯スポーツ推 進事業		324	生涯スポーツ推進及び普及のため、 スポーツ推進委員を各種大会へ派遣し指導を行った。	大鰐町スポーツ推進委員が主体となって毎年開催している『ニュース

事業名	区分	決算額 (千円)	事業内容	成果等
				『スポーツフェスティバル』は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で中止とした。そのほかの事業について、体力・運動能力調査の記録員や各種スポーツイベントの審判員派遣などを実施し、町のスポーツ推進に務めた。
図書購入事業		499	公民館図書室用図書購入	流行の本や推薦図書をその都度購入し、読書意欲の向上に努めることや、児童誌、生活関連雑誌を購入し町民の図書室利用に供することができた。
公民館改修事業		11,735	中央公民館高圧受電設備更新設計業務 1,889,800 円 中央公民館耐震改修等設計業務 <u>9,845,000 円</u> 合計 11,734,800 円	昭和45年5月に竣工した大鰐町中央公民館の受電設備の更新工事や耐震改修工事のため、設計業務を委託し工事費を積算することができた。 次年度以降、工事施工費の予算確保に努める。
各体育団体補助金		967	町体育協会補助金 675,000 円 (県民体育大会中止のため) 県民駅伝競走大会補助金 0 円 (中止のため) 各種スキー大会 292,000 円	県民体育大会及び県民駅伝が令和2、3年度連続中止となり、県内で規模が大きいスポーツ事業が実施できなかった。 スキー大会については、中・高校の大会ともにコロナ禍であったものの競技役員が尽力し開催され無事終了することができた。

事業名	区分	決算額 (千円)	事業内容	成果等
小中学校スキー 振興事業		563	利用人数及び助成金額 小学生 306人 351,900円 中学生 136人 210,800円 計 442人 562,700円	当事業は昨年度に比べ、利用人数が23人減となった。その要因としては、小中学校で休校措置をとった期間があり、利用者が減少したが、多くの児童・生徒が地域の特色であるスキーに触れ、親しむ機会を創出することができた。
虹貝多目的広場 管理費		1,919	施設修繕 (屋根雪害部修繕、水道メーター交換) 77,000円 虹貝多目的広場環境整備業務委託料(草刈り、薬剤散布、支障木伐採等) 1,344,970円 AED(除細動器)リース料 99,000円 産業廃棄物収集運搬 181,580円	令和3年度は、施設の近隣住民から支障木の伐採の要望があったため、指定された立木を伐採し問題を解決した。その他、旧大鰐高校の時からある物置などの産業廃棄物を処分し、利用者が安全に安心して利用できる施設になるよう改善に努めた。

IX 評価委員による点検・評価

【教育委員会会議について】

・「新型コロナウイルス」の感染拡大によって、県内および中南地方の市町村教育委員会連絡協議会定例総会・研修会が中止となり、教育委員としての見識を深める機会が失われたことは残念であった。また、様々な行事への教育委員の参加が中止になったこともやむを得ない。とは言え、毎月1回の定例会議が開催され、事務局の報告や委員の議論も概ね適切になされている。

・コロナ禍での開催ではあったが、定例会が計画的に行われている。その中で業務内容が報告され、教育委員間で認識の共有化がなされている。

【学校教育の推進について】

・「授業の充実」の項目では「コロナ禍」の影響を最小限に抑えることができ、学力の形成で大きな成果を上げている。また、「特別活動の充実」や「体育・健康教育の充実」、「生徒指導の充実」、「特別支援教育の充実」などの項目でも、小学校及び中学校で大きな成果を上げている。今後は、「国際化に対応する教育」としては、本年2月に始まったロシアによるウクライナ侵攻や「核兵器の廃絶」などについても取り組む必要があるのではないかと。

・「授業の充実」については、小学校では校内研修テーマとして「学びをつなげ、考えを深める子どもの育成」を掲げ、考えを表現することを意識した国語科と算数科の授業を展開してきた。同校では学習指導要領の改訂に伴い「評価の観点」が変わることを意識して取り組んでいる。その結果、CRT検査学力検査における「主体的に学習に取り組む態度の評価」で、4年生以上のどの教科も全国平均を上回るなど成果を上げている。

また中学校では、「確かな学力を身に付け、学び続ける生徒の育成」のために、NRT等の学力検査に加え、アセスや生徒意識調査等の情意面のアンケート調査の実施と分析さらに学習指導要領の完全実施に向けた「授業づくりのポイント」の明確化と共通理解に取り組んできた。その結果、生徒意識調査に「生徒の学習意欲が向上し、課題に対して粘り強く取り組んだり、積極的に学び合ったりする生徒が増えている」ことが顕著になるなど成果が表れてきた。以上のことから、小中学校とも、学習に向けた意欲等の情意面の向上が見られることから、今後このことを基盤にして学習評価のさらなる向上を目指して取り組んでいただきたいと考える。

「生徒指導の充実」については、従来から小中学校とも「学校環境適応尺度アセス」を活用するなど小学校と中学校が連携して取り組んでいる。小中学校とも重大ないじめや問題行動が発生しておらず、教員と生徒の良好な信頼関係をもとに安心した学校生活

を送っている様子が伺われる。特に中学校では別室登校及び保健室登校が6名いたが、完全不登校はおらず、登校の継続に加え鰯中祭や体験学習等にも参加するなど親身な指導がなされており、それぞれの生徒実態に応じた進路指導についても成果をあげている。今後も生徒指導の三原則を生かした授業をもとに、児童生徒の思いに寄り添った指導に取り組んでいただきたい。

「キャリア教育の推進」については、コロナ禍の中で小中学校ともに苦労されたことと思うが、小学校では5・6年を中心とした「OH!鰯元気隊キッズ」の活動で、学校園で育てた作物を「鰯 come」で販売するなど地域との関わりで学習を進めている。また中学校では、全校生徒を対象とした「キャリア講話」を実施し、自己の生き方をふりかえり、夢や生き方に触れる貴重な体験をさせている。キャリア教育については、地域の人材の育成という観点からも重要であり、「授業の充実」「生徒指導の充実」と関連をさせながら継続的に進めてほしい。

【社会教育の振興推進について】

・「青少年の体験的活動の充実」や「子どもの読書活動の充実」、「関係機関との連携による多様な学習活動の支援」、「学習成果を生かした社会参加活動の支援」、「社会教育施設の機能の充実と活用の促進」などにおいて大きな成果を上げている。今後、地域におけるコーディネーターの養成やネットワークの形成などにも積極的に取り組む必要がある。また、オンラインでの講座なども実施できる条件整備が必要なのではないか。

・「青少年の体験的活動の充実」を図るために、ふるさと子ども教室においては、大鰯町の特色を活かす体験活動事業として、木育を目的とした「夏休みOWANIふるさと教室」を、冬休みには郷土の俳人増田手古奈氏の俳句カルタを用いた「わにっこカルタ大会」を地域の方に指導していただきながら実施している。両事業とも大鰯町の特色を活かし、子どもたちが故郷への関心を高めることができる貴重な体験活動であり、今後も工夫を加えながら継続していただきたい。

「地域全体で子どもを育む活動の充実」については、小中学校での「俳句出前教室」への講師派遣、通学指導員の配置、青少年健全育成連絡協議会による駅前民間交番「わにっこ安心ステーション」の運営などがなされている。ただこれらについては、若い後継者の育成が課題となっており、文化協会などと連携して早急に対策を講じてほしい。

また、これらの事業は、地域の子どもたちが町を愛し子どもたちの命と安全を守るために大切なことであり、今後も継続して実施できるよう働きかけていただきたい。

なお、「コミュニティ・スクール」導入については、首都圏と大鰯町では地域の実状が異なる点に配慮した進め方をしていただきたい。

【文化財の保護活用について】

・「かけがえのない文化財を次世代に伝えるため、適切に管理し、保護・保存に努める」ことは、文化財に関する行政の最も基本となるところであり、この領域で大きな成果を上げている。地域で継承・保存されてきた伝統芸能や文化は、常に目的意識的に継承・保存する努力が必要とされる。そのためにも、学校教育や社会教育・生涯学習、観光行政などと連携して積極的な情報発信をするとともに、活用を図ることが求められている。

・宿川原地区の板碑の標柱を修繕するなど文化財の保護に努めている。「はぎかつら」説明版については町内外問わず関心が高いと思われるので順調に事業を進めてほしい。町の文化財の状況を生涯学習だよりで紹介したが、とても有意義な取り組みであり、今後も是非継続していただきたい。

【生涯スポーツの振興について】

・アルペン・クロスカントリースキーに親しみ楽しむことができる環境にあることを生かして、「学校体育・スポーツの充実」という項目では大きな成果を上げている。今後は、学校給食において一層地元の食品を活用したり、食育の推進を図っていただきたい。また、運動・スポーツは全世代にとって成長発達・健康増進などに役立つことを重視し、さらに「仲間づくり」や社会参加と結びつけた事業を追求していただきたい。

・令和7年度の国民スポーツ大会冬季大会の開催については、関係機関と連携を保ちながら進めていただきたい。

また、「地産地消の食育活動」については、児童生徒の健康教育や地元農産物の生産力向上の観点からも重要であり、今後も小中学校やPTA、各関係機関と連携しながら取り組んでいただきたい。